

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400663), 法人名 (社会福祉法人杜の会), 事業所名 (福井倶楽部), 所在地 (札幌市西区福井4丁目14-18), 自己評価作成日 (平成30年11月15日), 評価結果市町村受理日 (平成31年1月24日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigvosvoCd=0190400663-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年12月19日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近所の方から新鮮な野菜を頂いたり、ホームで作った漬物やおはぎを差し上げたりと日常的に地域との交流があり、毎年行うパーベキューにもお誘いし楽しいひと時を過ごしています。利用者様の機能低下が顕著に見受けられますが、皆様が地域の中で安心して過ごせるよう支援しています。職員は介護福祉士が7名看護師が1名の計8名で個々のレベルに合った柔軟な対応をしながら家庭的な雰囲気をお大切に、サービス提供に努めています。また、福井倶楽部では職員の接遇に力を入れており接遇の自己チェックや他者評価を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内から西、手稲山系に包まれた閑静な住宅地にあり、丘陵地であるため景観が素晴らしく、静かで自然に富んだ環境下に立地している。設立は社会福祉法人を母体として平成14年に開設し、4年前の法人の再編成を経て今日に至っている。建物は民家改造型で、二階建ての家屋を改造し1ユニット9人の生活を支援している事業所である。当事業所の優れている点の筆頭に、介護の基本、接遇の徹底を挙げたい。職員の全員が介護福祉士の資格を有している点も特筆されるが、その有資格者を人事考課制度を活用しながら、自己目標と自己評価、他人評価を3ヶ月、6ヶ月の期間で行い、常に対人援助の原点を忘れないように努めている。介護にも基本は活かされており、入浴に制限を設けず、毎日お湯を満たして準備し、外出も冬や寒さを理由に取りやめない等々の、介護側の都合を極力排除した介護に職員全員で取り組み、実践している。エレベーターの未設置、玄関の傍に居室など、民家改造型の不便な点も見られるが、それらを含め小規模だが温かさのある、礼節に満ちた介護を実践している当事業所に今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切にしている。ホーム内に理念を掲げ月に一度唱和している。	明るく家庭的な雰囲気を重視し、地域の中で入居者がにこやかに個性豊かに過ごす・・の運営理念を事業所内に掲示し、唱和も行いながら、実践に活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方にホームのバーベキュー行事にお誘いしたり収穫物等を差し上げたり頂いたりしている。歩行状態低下の為町内会の行事の参加は減っている。	事業所の行事に近隣の住民を招いたり、町内のお祭りに参加する等、相互で積極的に交流を進めている。事業所のお便りを町内会に閲覧してもらい、理解が深まるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として特には行ってない。回覧板にホームの広報誌を入れてもらってホームの様子や活動はお知らせしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。ホームの活動や利用者の状態、広報誌の配布、ひやりはつとや事故の内容、予防策を報告している。地域包括支援センターや町内会からの情報や意見を伺っている。	家族代表や町内会役員、包括センターの職員の参加を得ながら定期に開催し、議事内容も行事報告からヒヤリハットまで及んでおり、議事録も家族あてに送られ、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は札幌市GH管理者会議、西区GH管理者会・研修会に出席している。月に1度空室状況を報告している。12月に札幌市の集団指導あり。	市が主催する研修や集団指導等には積極的に参加している。また介護の更新申請等で行政窓口に行くときは情報交換を行い、信頼関係が継続できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に虐待関係のチェックリストを行ったり、職員間で日常的に拘束になっていないかの確認を意識している。3ヶ月に1回身体拘束適正化の為に対策検討会議を行っている。	本部職員や老健職員と共に拘束対策検討会議3ヶ月毎に開催し、言葉使いを始めとして日常のケアの細部にわたって検討し、拘束も抑制も無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止推進研修会1名受講。研修報告の際チェックリスト行う。接遇の自己チェックや他者評価を行い接遇の面談を行っており防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で学ぶ機会はある。今現在活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心不安や疑問を伺い十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時苦情の窓口等説明をしている。極力面会時要望を伺ったり相談するようにしている。家族にアンケートを行い要望を伺った。	事業所単独でアンケート調査を年度末に実施し、要望や意見の集約に努めている。前回では、玄関の階段の除雪について意見を頂き、電熱で除雪をする事を実施した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。全職員年2回の人事考課の面談時母体施設の顧問や総務課長と話をすることがある。	人事考課制度を導入しており、管理者との面談の他に、本部役員や総務課長との面談もあり、また会議や申し送り時に活発な意見交換がなされ、意見や提案を聴取し、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入、昇給制度、寒冷地・年末年始手当有り。今年度は震災時の手当も有り。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた外部研修を実施。月に数回系列施設の内部研修があり参加し研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的にあるが職員は殆どない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い思いや要望を傾聴し理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で要望を伺ったり相談したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用の対応はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	随時本人の出来る事、やりたい事を見極めやっけて頂いている。一緒に行う中で良好な関係を築いているが機能低下が著しく一緒に出来る事が減ってきている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	押し付けにならないよう配慮しながら家族が出来る事は依頼し、こちらが協力できる事はしている。家族参加の行事も年に3回程あり、家族と過ごす時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在対象者はいなく行っていない。	町内からの入居者もいて近くを散歩等しており、今は重篤化して困難になっているが、家族の訪問や昔話、好みの食べ物等で、馴染みの関係性を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時環境整備に配慮しそれぞれが安心して楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特にこちらから支援に努めてはいないが要望があれば対応は可能。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し一人ひとりの思いや表情を汲み取り本人本位に検討している。	日々生活を支援していく中から、好みや嫌な事等の思いを把握し、職員間で確認しながら、意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や家族や本人から情報をもとに把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を細かく観察し、意見を聞き職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをもとに本人、家族、職員の意見を反映し介護計画を作成している。	作成担当を中心にアセスメントとモニタリングを徹底し、家族意見も取り入れながら6ヶ月毎に介護計画を更新している。また病変等で状態が変化した場合は、即時にケア会議で検討し、現状に合った介護計画になるように取り組んでいる。	介護計画により定められた短期目標の実施状態や進捗度は、毎日ケアの都度把握する必要があると思われ、介護日誌等の記録の様式について、検討するように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきの記録は出来ており、申し送り等で随時職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて随時柔軟な対応が出来るようにしているが今現在そのような取り組みはしていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源の活用はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員いまいホームケアクリニックの定期的な往診を受けている。特変時報告、相談をして指示をもらったり往診にきてもらっている。	24時間、365日、受診・往診可能な医療体制を活用しており、眼科等の専門医以外は、協力病院にての受診となっている。協力医以外の必要な医院への通院も職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	便秘の方の相談や日々の様子を職員の看護師や系列施設からの訪問の看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ数年入退院は無かったが病院関係者との関係作りは行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に説明している。ADLが低下した時点で管理者や計画作成担当者を中心に早い段階で家族の意向を伺い相談している。年に1回終末期についての確認のアンケートを取っている。	見学の時や契約時に終末期の介護、看取りについて書面で本人・家族の意向に沿う旨を説明している。また毎年意向の確認を本人・家族にアンケートで実施し、看取りの研修も本部の看護師にお願いして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの内部研修あり伝達講習は行ったが、応急手当等の定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今回の震災を受け法人内で反省点等のアンケートを取った。それを踏まえ災害グッズの見直しを行った。訓練は行っている。	年に2回、消防の指導により避難訓練を実施している。災害用の備蓄品や冬季暖房機材も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の自己チェックや他者評価を行い定期的に振り返る機会を設けている。一人ひとりの人格を尊重し個々に合わせた言葉かけに配慮している。	介護の基本は接遇であり、それを保つために定期的な自己と他者での評価を行っている。具体的にはかわいいやアーン等のNGワードを常に確認し、礼節を見直している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力自己決定出来るよう対応しているが、自己決定出来る場面は減ってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援している。極力希望にそえるよう支援しているが出来ない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こちらの押し付けにならないようその人らしいおしゃれ出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新しいメニューや好みを取り入れたり、誕生日メニューや行事食は喜んで頂ける様に工夫している。準備や片づけは頻度は少ないが会話をしながら一緒に行っている。外食も好みに合わせて行っている。	基本的な献立は栄養士が行い、それに一品加えたり添えたりと工夫をしながら、職員も同席同食で、明るい食卓になるよう努めている。回転ずしやレストラン等の外食もおこない、食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのレベルや状態に合わせた対応を随時行っている。ご飯が進まない時は代替品を提供したり時間をずらしたりと柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは数名のみ。口腔ケア時特変があった場合は速やかに報告し状態によっては歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し対応している。随時見直し検討をしている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、排泄のサインを見逃さずに、時間もふまえてトイレに誘導している。また無理のない排泄になるよう、毎朝、手造りのヨーグルトにひと手間を加え、腸内の環境を調節しながら排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝甘酒を提供したり乳製品の摂取や下剤で調整している。排便がない日が続いたら速やかに看護師に報告している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回で時間帯はある程度固定しているが希望があれば時間や曜日をずらす事は可能。随時柔軟に対応している。	毎日お風呂に入れるように準備し、いつでも誰でも入浴出来るような体制で、全員が週に2回以上入れるように努めている。希望や必要度にも柔軟に対応し、個人に合わせた入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせた休息や睡眠を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更時は随時申し送りをし介護記録ファイルに個々の処方箋を保管し全員が確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かし役割を提供しているが決まり切ったものになってきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物等は希望に沿って対応できている。個々の希望やレベルに合った外出の支援をしている。	外出は季節のドライブの他、散歩や買い物、喫茶店でのコーヒータイム等々、希望に合わせて行っている。冬季も、寒いことを理由にせず、頻繁な外出で閉じこもらない介護を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在は全員こちらで管理している。1000円以内で所持する事は可能だが希望者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら携帯電話で家族に電話をする方1名。手紙のやり取りをしている方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝換気を行い共用空間の臭いに配慮している。季節の造花や写真を飾ったり音楽をかけたり居心地よく過ごせる工夫をしている。	大きな民家を改造した造りだが、階段や廊下幅も広く、特に居間はゆったりとしており、住宅地が眼下に広がる眺望も素晴らしく、静かに過ごせる環境は居心地の良さを感じられる。装飾も華美な造りは避け、季節の花等であり落ち着いた工夫となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのレベルに合わせた対応をしている。居間のソファやテーブルの位置は随時変えて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を持ってきており、随時家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	各部屋は画一的ではなく、それぞれが異なっており、より鮮明に自分の部屋を感じられる造りとなっている。室内には収納スペースが用意され、自分の馴染みの家財も多く持ち込まれ、居心地の良い自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随時臨機応変に工夫している。わかりやすい貼り紙を貼ったり手すりを使用している。階段昇降をしてもらったり自立して生活が送れる様工夫している。		